



2022年 1月19日 (水)

第61期 (2022年 3月期) 第 3 四半期決算説明会

(2021年 4月 1日~2021年12月31日)

代表取締役社長
取締役

最高経営責任者 (CEO)
管理本部長

保木 潤一
川久保 秀樹

将来予測に関する注意事項

この資料に記載されている当社の現在の計画、見通し、戦略は、将来の業績に関する見通しです。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。従って、これら業績見通しに全面的に依拠することはお控え願います。様々な重要な要素により、実際の業績はこれら業績見通しと異なる可能性があります。

本資料に含まれる業績については、監査法人による会計監査を受けておりません。

業績の概要

第61期（2022年3月期）第3四半期損益計算書



単位：百万円 端数：切捨て	20.12 60期3Q実績		21.12 61期3Q実績		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	27,696		27,810		114	100.4%
営業利益	4,508	16.3%	4,802	17.3%	293	106.5%
経常利益	4,919	17.8%	5,072	18.2%	152	103.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,296	15.5%	3,692	13.3%	△603	86.0%
E P S	142.11円		126.27円			

HOGY

4

■ 増収減益

売上高 : +114百万円 (0.4%増)

- : 第1四半期 コロナによる手術件数減の反動増により増収
- : 第2四半期 感染拡大の影響を強く受ける
- : 第3四半期 新規獲得によりキット製品増収
- : プレミアムキット、ブリストアキットの販売は好調
- : 感染防護製品の反動減（第2四半期より継続）

営業利益 : +293百万円 (6.5%増)

- 原価 - 57.6%(前年比△0.4pt)
- 償却費の減少
- 販売管理費 - △142百万円 (2.0%減)
- 償却費等、見本費の減少

経常利益 : +152百万円 (3.1%増)

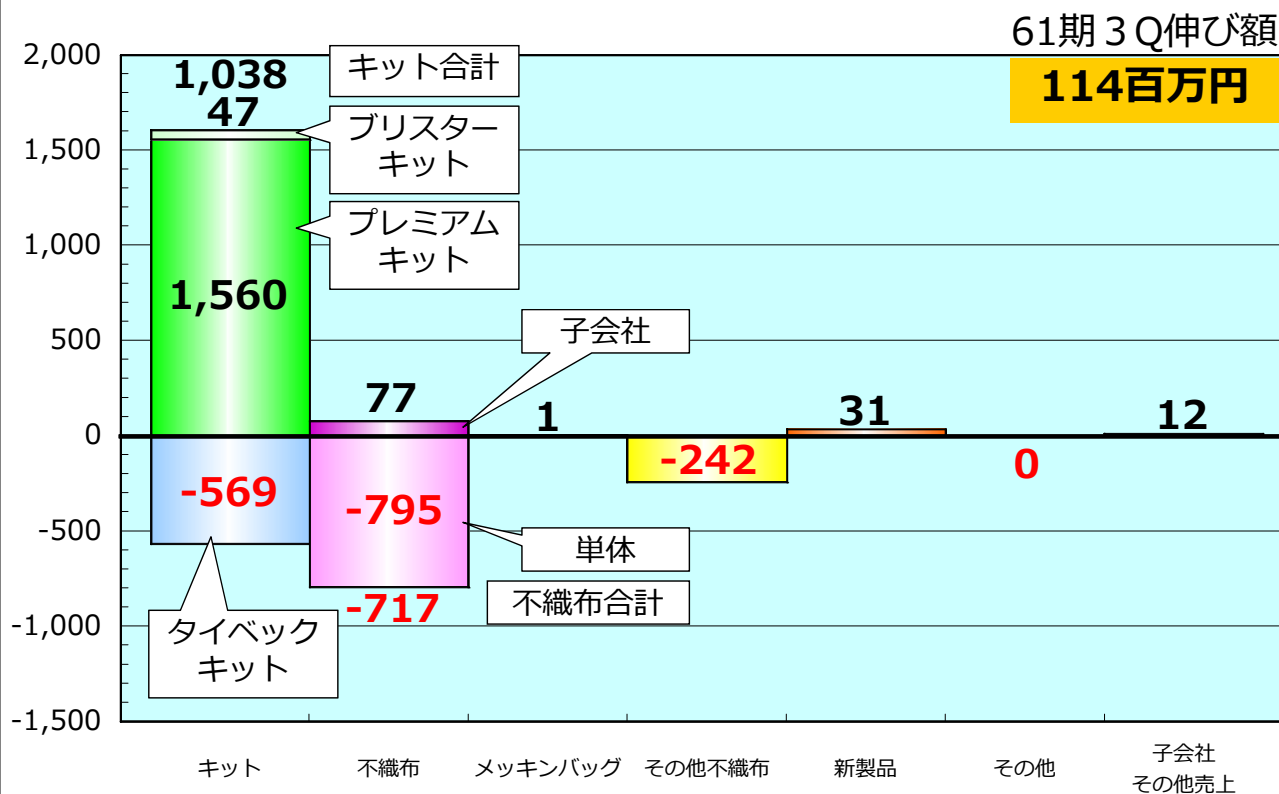
当期純利益 : △603百万円 (14.0%減)

特別利益：前年度に一部株式売却益（1,028百万円）を計上したことによる反動減

第61期（2022年3月期）第3四半期 主な製品の売上高伸び額



(単位：百万円、端数：切捨て)



HOGY

5

・ プレミアムキットへ販売を注力した結果、前年比37.5%増加 (3Q累計販売額：5,716百万円)

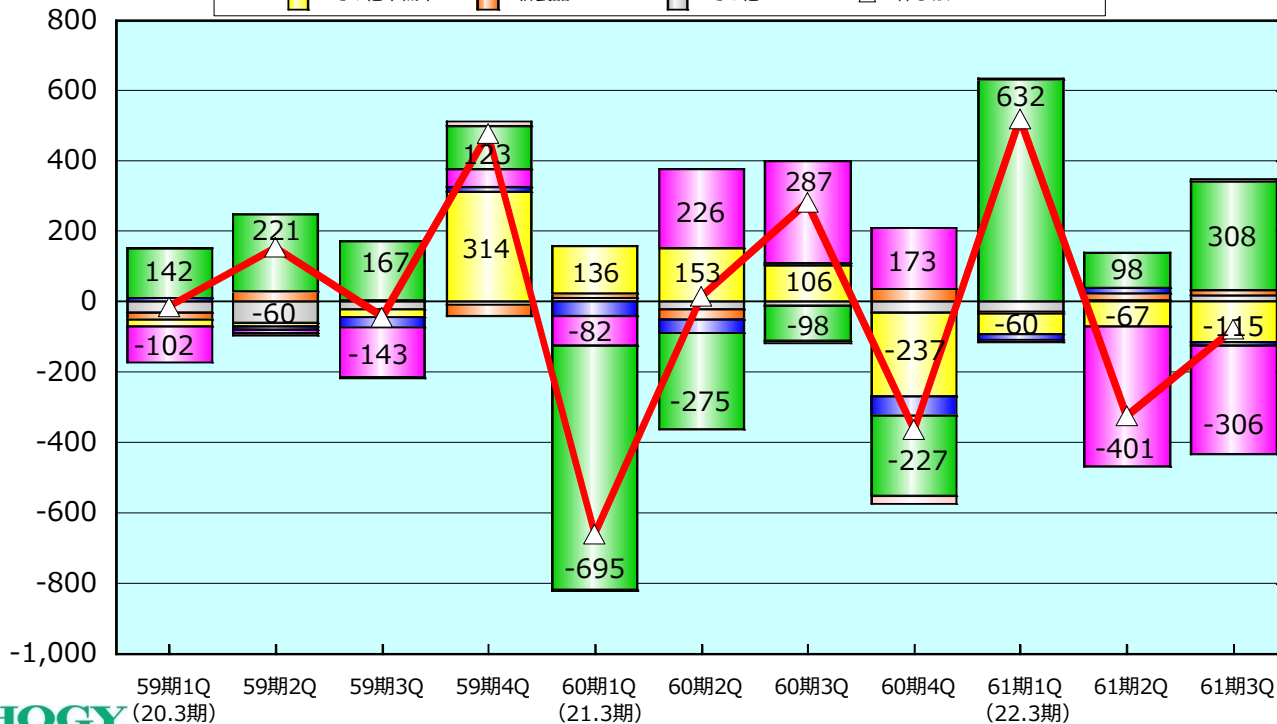
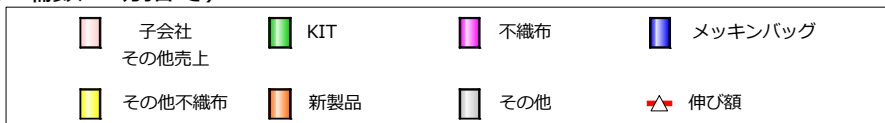
* 弊社短信での「プレミアムキット」の販売額は「プレミアムキット」「ブリスターキット」の合算を記載しております

- ・ タイベックキットを中心に新型コロナの影響を受ける
- ・ 不織布（ガウンとプリコーションセットを中心とした感染防護製品）とその他不織布（マスク）は特需の反動減

第61期（2022年3月期）第3四半期 四半期別売上高伸び額の内訳



(単位：百万円、端数：切捨て)



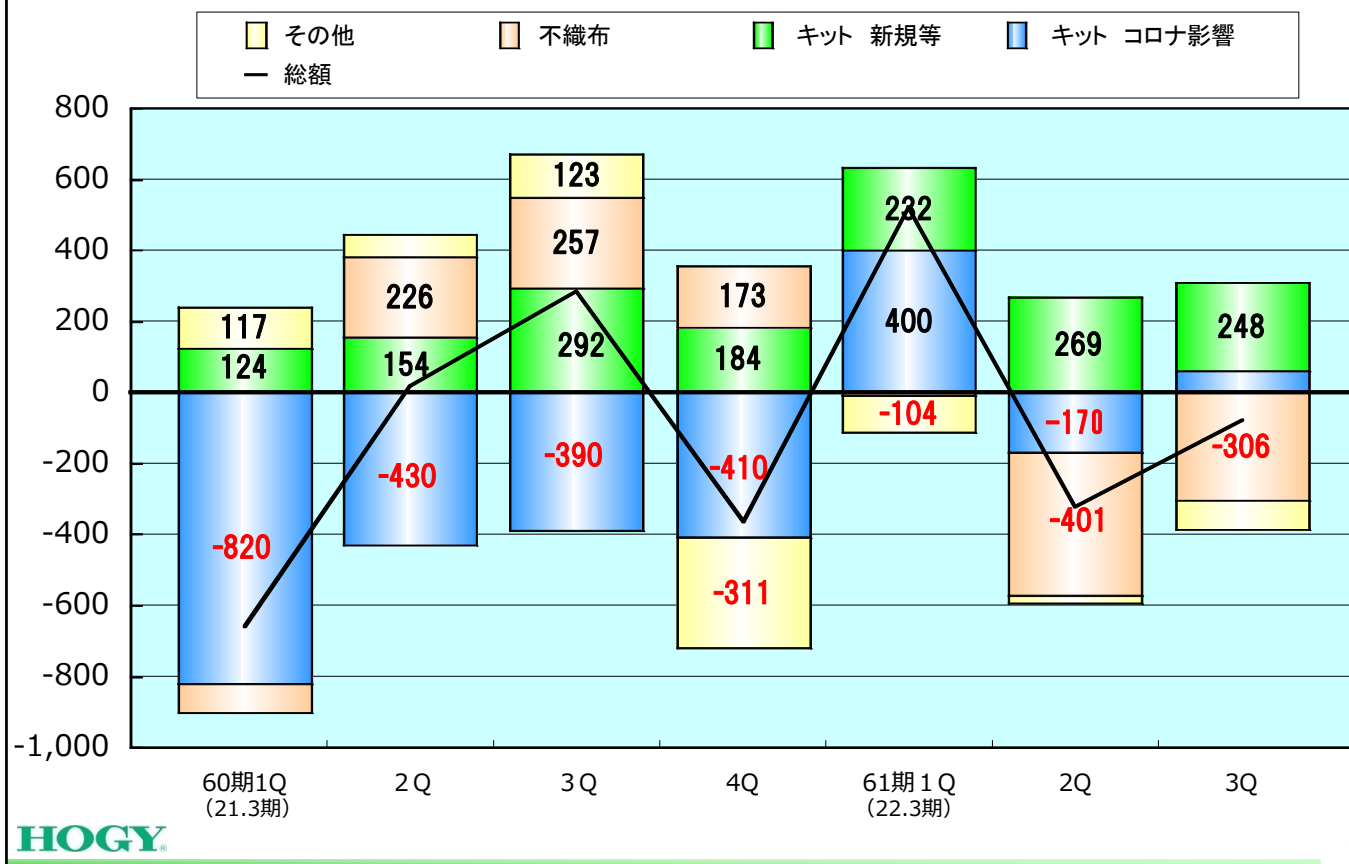
HOGY

6

- ・ コロナ影響から改善が見られた第1四半期に比べ、第2四半期ではコロナ影響が拡大
- ・ 第3四半期では新規獲得によりキット製品増収
- ・ 不織布では前年度第2四半期よりプリコーションセットの販売を開始した反動減

四半期別 伸び額の内訳

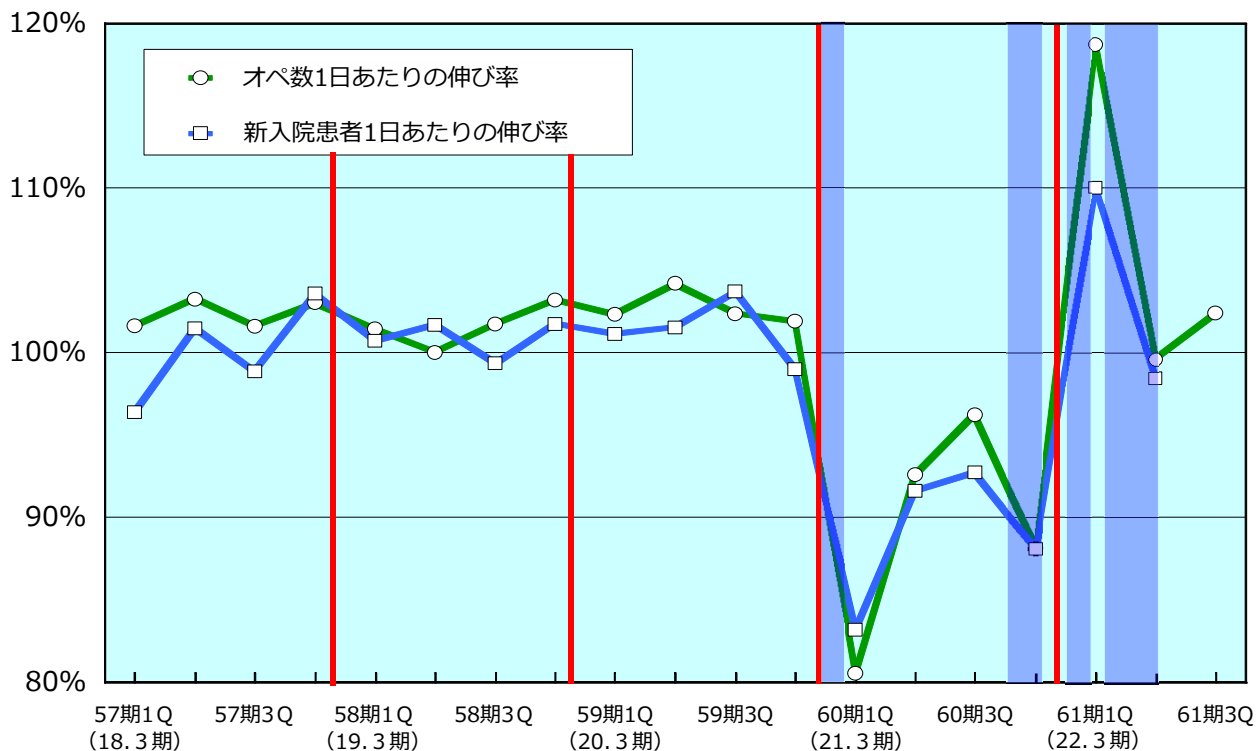
(単位：百万円、端数：切捨て)



(単位：百万円、端数：切捨て)

	60期1Q	2Q	3Q	4Q	61期1Q	2Q	3Q
キット コロナ影響	-820	-430	-390	-410	400	-170	60
キット 新規等	124	154	292	184	232	269	248
キット 合計	-696	-276	-98	-227	632	99	308
不織布	-82	226	257	173	-9	-401	-306
その他	117	65	123	-311	-104	-23	-81
総額	-661	15	282	-365	519	-325	-79

オペラマスター病院 手術件数の伸び率と 新入院患者の伸び率/日



HOGY

は、東京都の緊急事態宣言期間

8

- ・ 医療機関によって手術件数の回復傾向に差があり 2 極化が進む
- ・ 12月はコロナ以前と同程度まで手術件数が回復

■市場環境

- ✓ **2022年診療報酬改定の基本方針発表**
 - ✓ 新型コロナへの対応
 - ✓ **医師の働き方改革やチーム医療の推進の他、看護に対する処遇改善**
 - ✓ 病床の機能分化促進のための重点支援区域の拡充と政府による集中的な支援により地域医療構想実現に向けた取り組みが一層推進される見通し
- ✓ **新型コロナ感染拡大により、4月大都市中心に緊急事態宣言、5月解除、7月全国各地で当該宣言、10月解除と状況が大きく変動**
- ✓ **オミクロン株の世界的な流行**
- ✓ **医療従事者の離職率の増加**
- ✓ 医療従事者の働き方改革に対する議論の再燃
- ✓ コロナ禍において手術件数を増加させ経営改善に取り組む医療機関との2極化が進む
- ✓ 医療機関での**機能分化が促進**（病床機能再編支援補助金は地域によって使われ方に差が出ている）

■決算のポイント

- ✓ 新型コロナにより手術件数の増減が起こり、第1四半期では改善傾向にあったが、第2四半期において前年を下回る状況となった
- ✓ 第3四半期ではキット製品が新規獲得により増収だが、不織布等で前年の特需の反動減により減収
- ✓ プレミアムキットの売上高増加（前年比37.5%増）
- ✓ 第2四半期より不織布製品（ガウン・プリコーションセット）の特需反動減
- ✓ プレミアムキット販売への資源の集中化

第61期（2022年3月期）経営計画

第61期（2022年3月期）損益計算書



単位：百万円 端数：切捨て	21.3 60期実績		22.3 61期修正計画		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	36,504		36,570		65	100.2%
営業利益	5,632	15.4%	5,790	15.8%	157	102.8%
経常利益	5,988	16.4%	6,050	16.5%	61	101.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,959	13.6%	4,300	11.8%	△659	86.7%
E P S	164.03円		149.29円			

HOGY

11

■ 増収減益計画

■ 想定事業環境について

- ✓ オミクロン株の世界的な流行と国内での感染拡大による変動要因が多分に含まれており、通期は前年と同程度の新型コロナの影響が残るものとする
- ✓ 医療機関の対応は2極化が進む

■ 医療機関では新型コロナにより増加した業務が定着

■ 医療従事者の離職率が増加

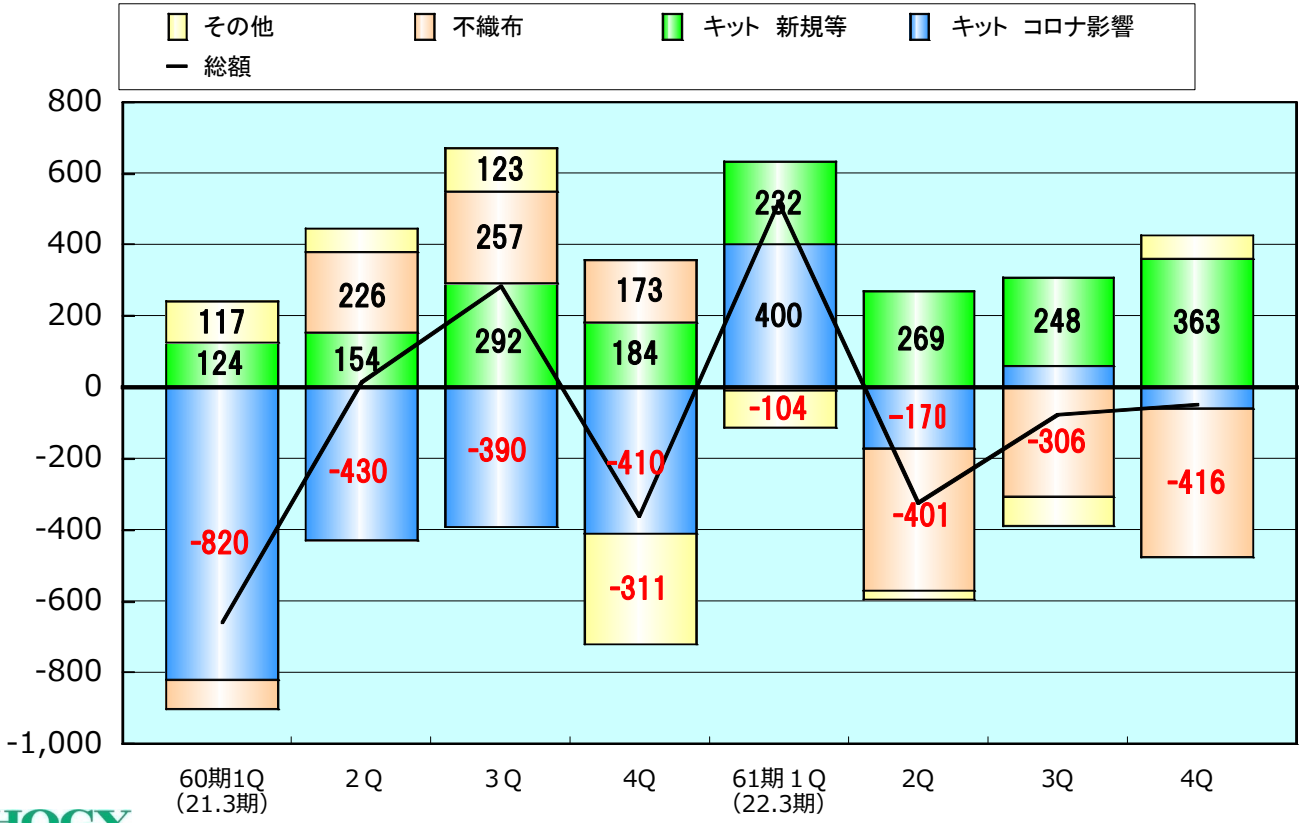
■ 決算の主なポイント

- ✓ 売上、利益ともに計画通り進む見通し
- ✓ 為替の変動による利益増減のリスク
- ✓ 販売計画に合わせた新工場2期工事の一部取得（1月取得予定を4月へ）

第61期（2022年3月期）販売計画



(単位：百万円、端数：切捨て)



HOGY

12

■ 下期キット製品への新型コロナの影響は前年並みとみる

■ キット新規計画についてはプレミアムキットでの採用を予定

■ 不織布製品は特需製品（ガウン・プリコーションセット）の反動減を見込む

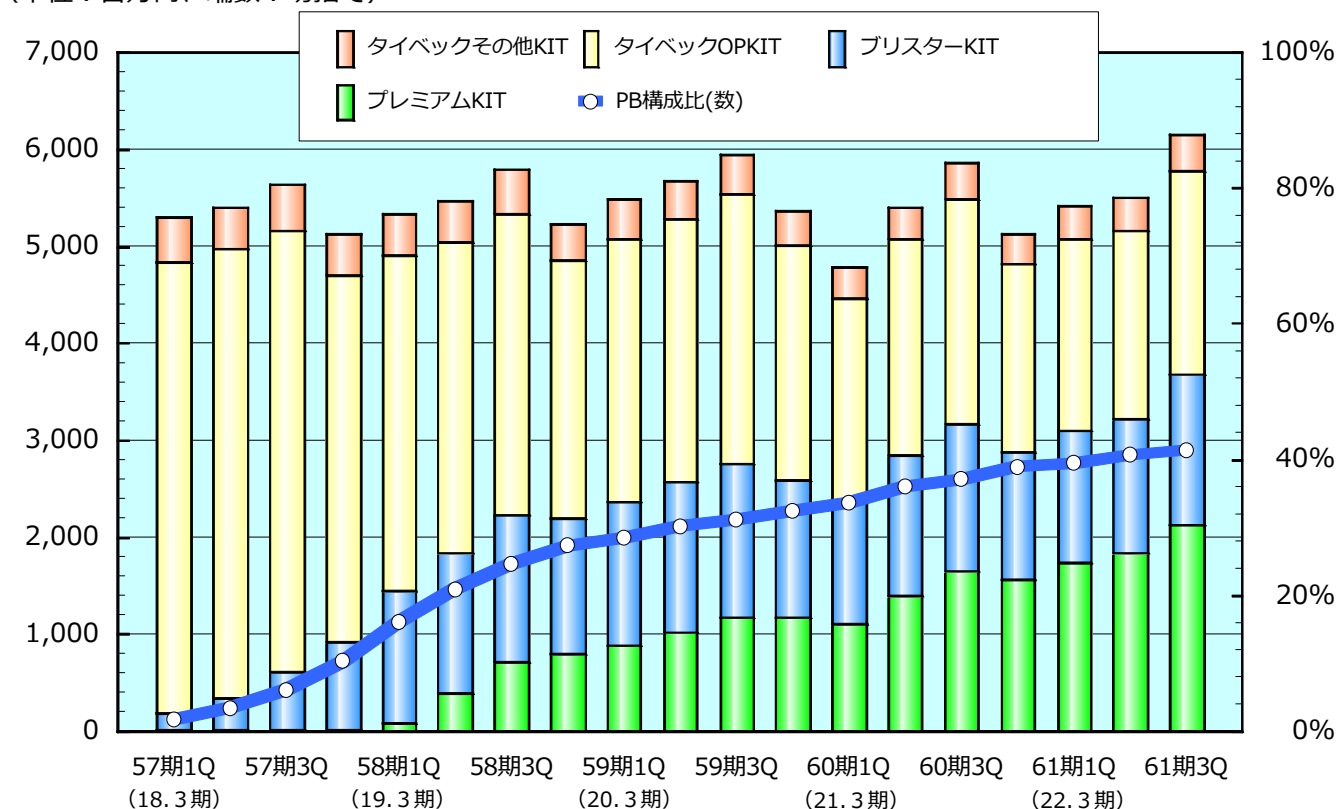
(単位：百万円、端数：切捨て)

	60期1Q	2Q	3Q	4Q	61期1Q	2Q	3Q	4Q
キット コロナ影響	-820	-430	-390	-410	400	-170	60	-60
キット 新規等	124	154	292	184	232	269	248	363
キット 合計	-696	-276	-98	-227	632	99	308	303
不織布	-82	226	257	173	-9	-401	-306	-416
その他	117	65	123	-311	-104	-23	-81	63
総額	-661	15	282	-365	519	-325	-79	-50

実績の詳細

キット製品 売上高推移

(単位：百万円、端数：切捨て)



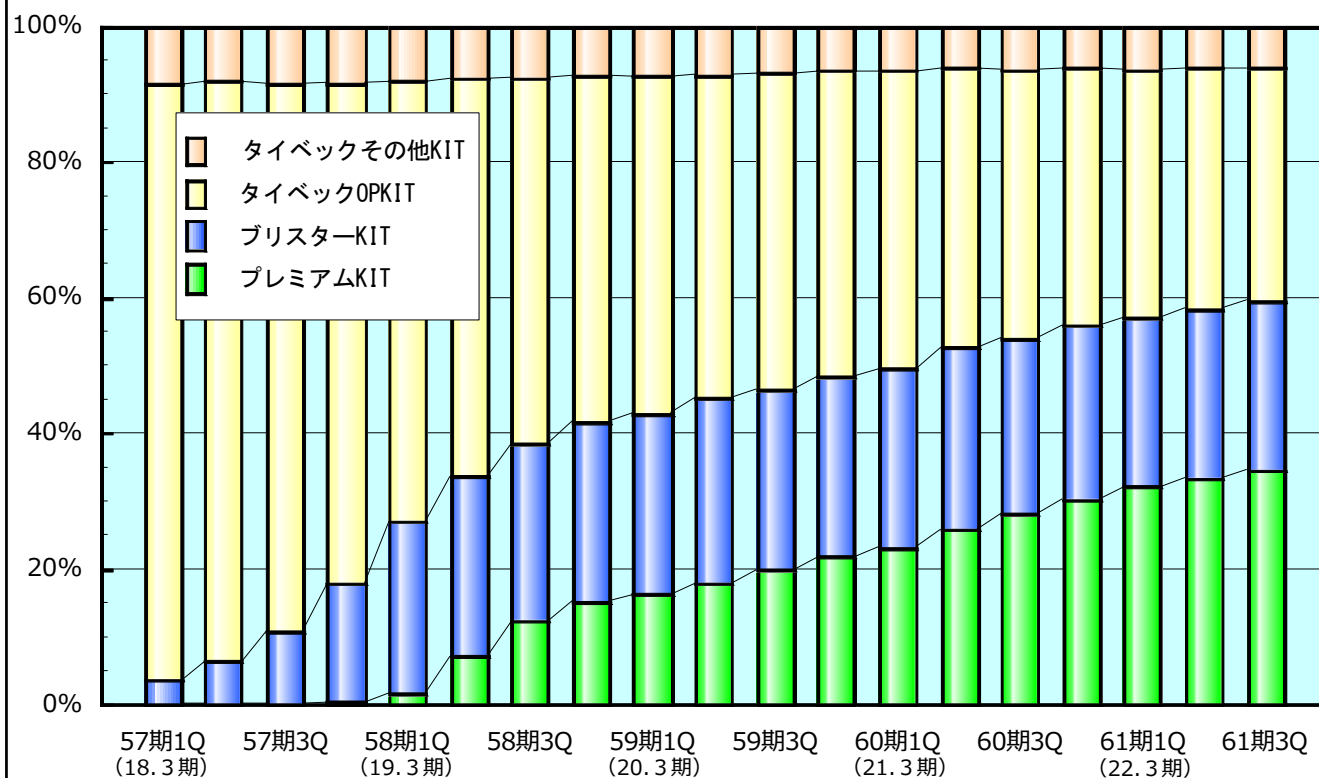
HOGY

* 弊社短信での「プレミアムキット」の販売額は「プレミアムキット」「プリスターキット」の合算を記載しております

14

- ・ 新型コロナの影響でタイベックキットを中心に販売量が減少
- ・ 緊急性の高い手術ほど件数の減少が少ない傾向
- ・ プレミアムキットの販売に注力した結果、プレミアムキットとプリスターキット合計の数量構成比は4割を超過
- ・ 61期第3四半期 前年同期比
 - ✓ プレミアム、プリスター：+502百万円、115.9%
 - ✓ タイベックキット：△196百万円、92.7%

キット製品 販売構成比 推移



HOGY

- ・ プレミアムキットの販売に注力した結果売上高が伸長し、販売構成比は3割を超過

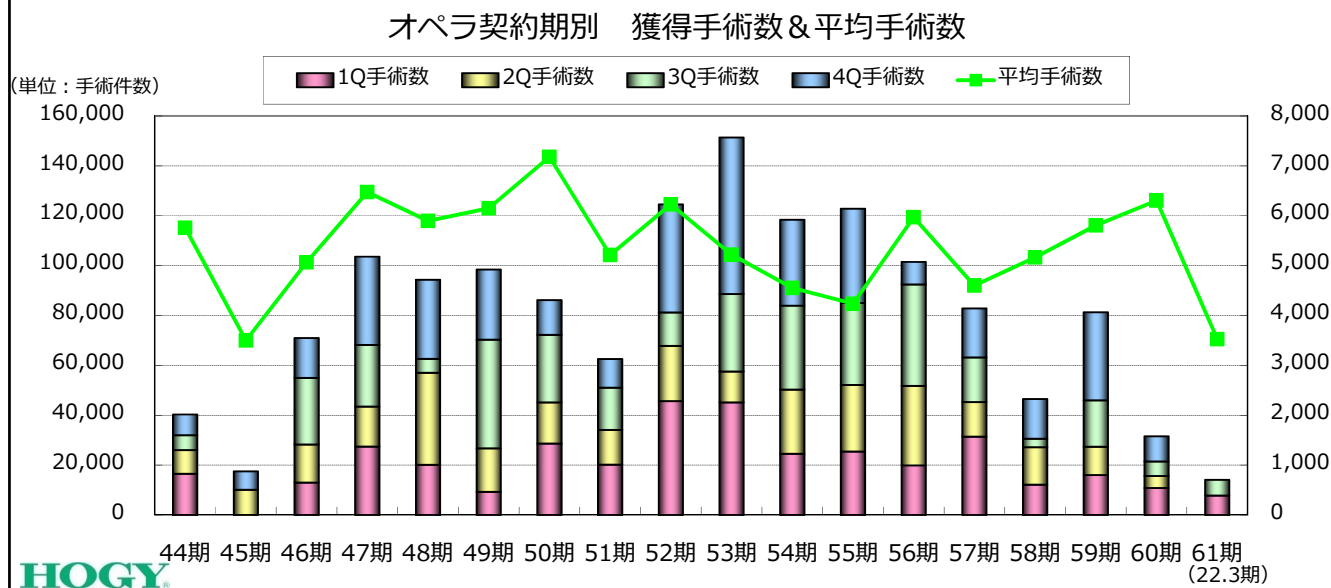
オペラマスター契約病院の手術数推移



売上高 : 11,424百万円 (前年比 772百万円 : 107.2%)

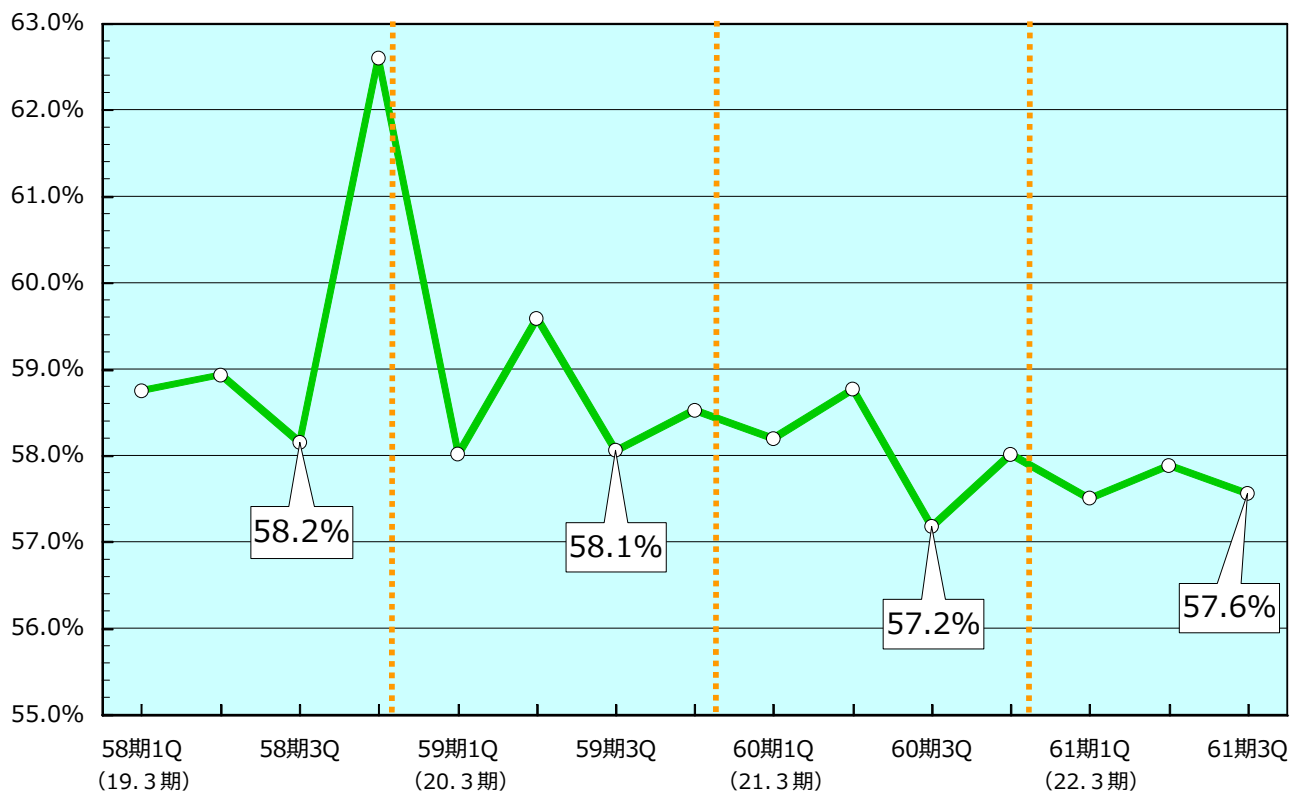
61期契約施設数 : 新規 4施設、解約 6施設

累計契約施設数 : 269施設



- 61期新規契約病院4件 (Ⅲ群4件)
- 61期新規契約病院の1病院当たり平均手術数は3,500件
- オペラマスター契約は患者が集中する大病院に注力

原価率推移



HOGY

17

・新工場償却費の減少

償却合計：1,034百万円（前年比：118百万円減）

- ・ 原価：830百万円（前年比：84百万円減）
- ・ 販管費：203百万円（前年比：33百万円減）

第61期（2022年3月期）第3四半期損益計算書



単位：百万円 端数：切捨て	20.12 60期3Q実績		21.12 61期3Q実績		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	27,696		27,810		114	100.4%
売上原価	16,070	58.0%	16,032	57.6%	△37	99.8%
売上総利益	11,626	42.0%	11,778	42.4%	151	101.3%
販売費及び一般管理費	7,118	25.7%	6,976	25.1%	△142	98.0%
営業利益	4,508	16.3%	4,802	17.3%	293	106.5%
営業外損益	411		269		△141	
経常利益	4,919	17.8%	5,072	18.2%	152	103.1%
特別損益	1,025		0		△1,025	
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,296	15.5%	3,692	13.3%	△603	86.0%
E P S	142.11円		126.27円			

主な増減科目	前年比
雑費	△87
減価償却費	△67
見本費	△44
試験研究費	△39
旅費交通費	26

HOGY

18

- 販売管理費：6,976百万円(△142百万円)
 - ✓ 雑費：前年度ソフトライセンスの更新が発生
 - ✓ 旅費交通費：前期営業活動自粛の反動増
- 設備投資：2,504百万円(内新工場追加：1,620百万円)

第61期（2022年3月期）経営計画

第61期（2022年3月期）損益計算書



単位：百万円 端数：切捨て	21.3 60期実績		22.3 61期修正計画		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	36,504		36,570		65	100.2%
売上原価	21,177	58.0%	21,300	58.2%	122	100.6%
売上総利益	15,326	42.0%	15,270	41.8%	△56	99.6%
販売費及び一般管理費	9,694	26.6%	9,480	25.9%	△214	97.8%
営業利益	5,632	15.4%	5,790	15.8%	157	102.8%
営業外損益	355		260		△95	
経常利益	5,988	16.4%	6,050	16.5%	61	101.0%
特別損益	1,001		△10		△1,011	
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,959	13.6%	4,300	11.8%	△659	86.7%
E P S	164.03円		149.29円			

HOGY

20

■売上高

- ✓ 新型コロナの影響は状況が常に変動しているため、KIT製品の反動増は見込まない
- ✓ 医療機関での**人員不足が加速**しており、「**安定供給**」と手術準備の「**効率化**」と「**安全性向上**」に貢献できるプレミアムキットの提案を強化
- ✓ キット製品の新規計画は期初計画から大きく変更なし
- ✓ 特需が起きた製品の反動減を見込む

■原価

- ✓ 償却費の減少
- ✓ 円安の影響による原価の増加
- ✓ インドネシアでの需要に合わせた生産体制の確立

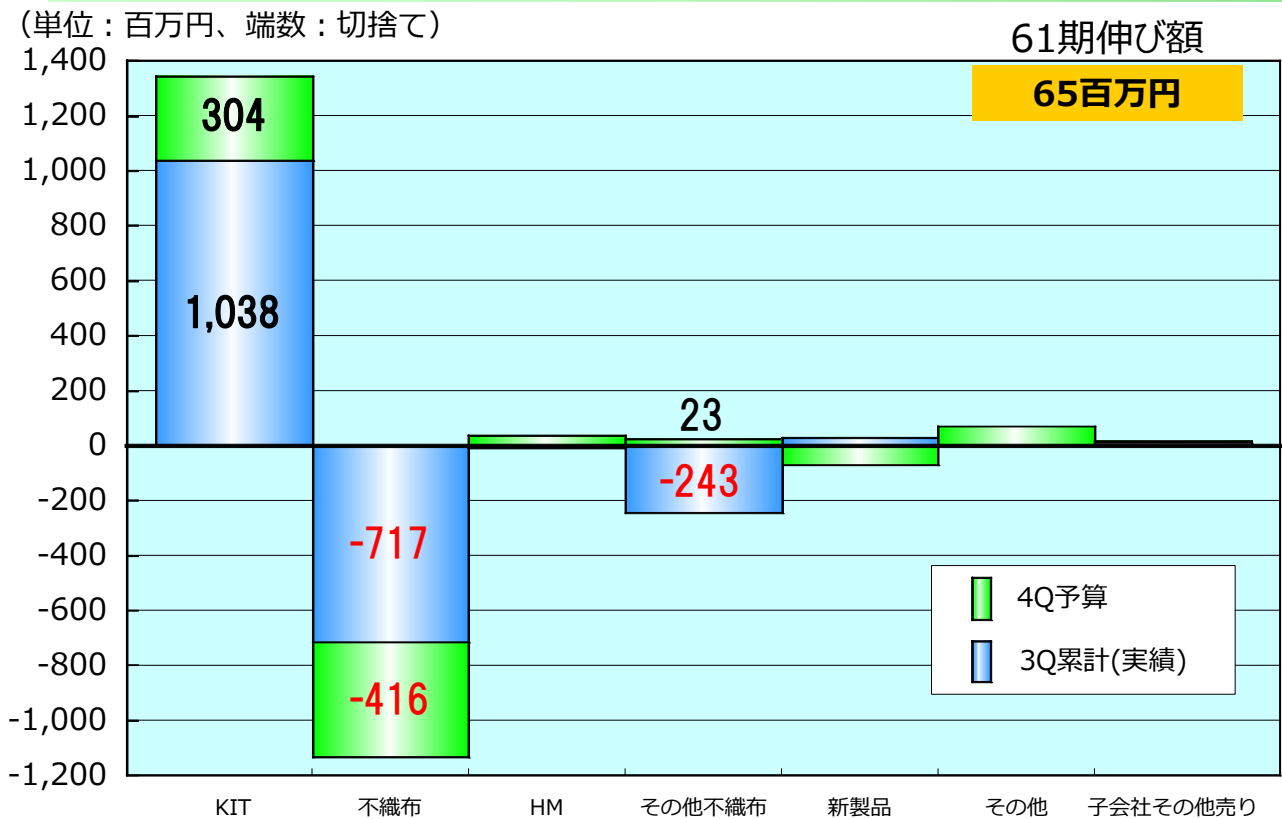
■販売管理費

- ✓ 活動状況に合わせた経費の使用

■特別利益

- ✓ 前年度は株式売却益を計上

第61期（2022年3月期）主な製品の売上高増減額

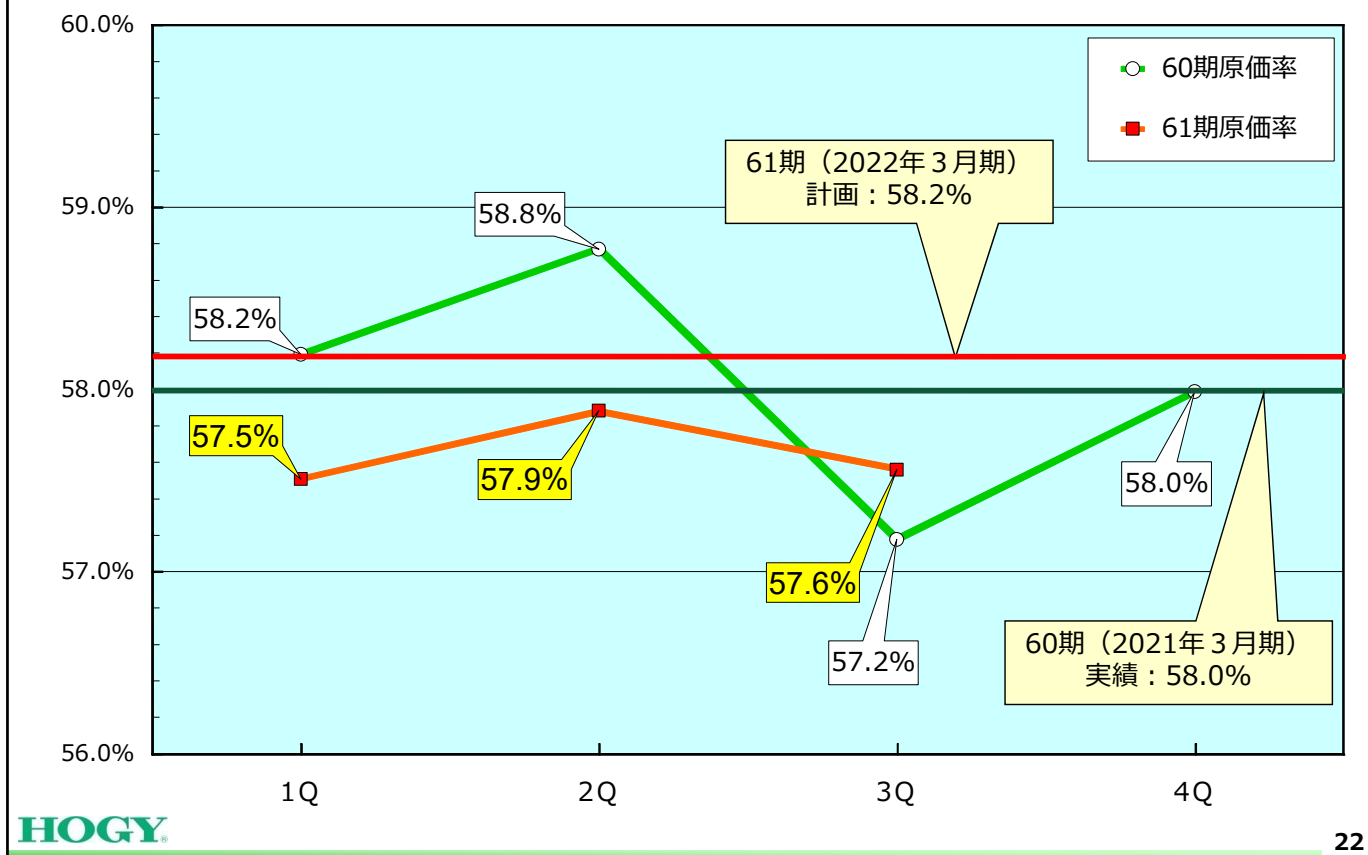


HOGY

21

- **キット製品**：新規（プレミアムキット）契約による増加
- **不織布製品**：ガウン、プリコーションセット特需の反動減
- **その他不織布**：マスクの特需の反動減
- **感染防護製品市場**はコロナ禍前の状態に戻り、競争激化

第61期（2022年3月期）損益計算書



・新工場償却費の減少

償却合計 : 4,460百万円 (前年比 : 89百万円減)

・ 原価 : 3,600百万円 (前年比 : 43百万円減)

・ 販管費 : 860百万円 (前年比 : 46百万円減)

※上記計画から変動予定

販売計画に合わせた新工場2期工事の一部取得

(1月取得予定を4月へ)

・生産量増加による原価率の改善

・コーポレートレート115円

第61期（2022年3月期）損益計算書



単位：百万円 端数：切捨て	21.3 60期実績		22.3 61期修正計画		前年比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	36,504		36,570		65	100.2%
売上原価	21,177	58.0%	21,300	58.2%	122	100.6%
売上総利益	15,326	42.0%	15,270	41.8%	△56	99.6%
販売費及び一般管理費	9,694	26.6%	9,480	25.9%	△214	97.8%
営業利益	5,632	15.4%	5,790	15.8%	157	102.8%
営業外損益	355		260		△95	
経常利益	5,988	16.4%	6,050	16.5%	61	101.0%
特別損益	1,001		△10		△1,011	
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,959	13.6%	4,300	11.8%	△659	86.7%
E P S	164.03円		149.29円			

主な増減科目	前年比
旅費交通費	61
試験研究費	△165
減価償却費	△46

→ 一部株式売却益
2021年3月期：1,028百万円

HOGY

- 販売管理費：9,480百万円(△214百万円)
 - ✓ 旅費交通費：新型コロナによる反動
 - ✓ 減価償却費：システム償却の減少
- 特別利益：前年度、有価証券株式の売却利益計上
- 設備投資：3,700百万円(内新工場追加：1,800百万円)



2022年 1月19日 (水)

第61期 (2022年 3月期) 第 3 四半期決算説明会

(2021年 4月 1日~2021年12月31日)

代表取締役社長
取締役

最高経営責任者 (CEO)
管理本部長

保木 潤一
川久保 秀樹